

# これがオススメ! 読み聞かせ本

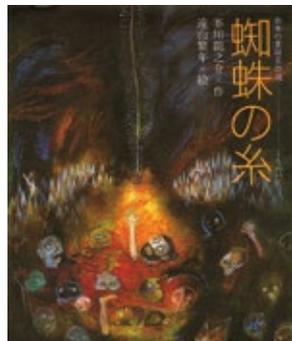
中学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

芥川龍之介と聞くと、私の脳裏にはいつも映画の「羅生門」の場面が浮かびます。映像は、作品の印象に大きな影響を与えます。ですから、読み手が伝えたい世界観を描いている絵本を選ぶように心がけています。

さて、今回の物語は「蜘蛛の糸」。様々な表情をした人の顔と、どろどろとした色。いつもとは違う雰囲気の表紙の絵に、子どもたちは「えっ」という反応を見せます。表紙をめくると飛び込んでくる、見返しの黒い色。まるで地獄に引きずり込まれていくような気分です。

ページをゆっくりめくると、今度は眩しく明るい蓮の池。対照的な色使いは子どもに不思議なものを感じさせ、賑やかだった教室の空気が、みるみるうちに変わっていきます。子どもたちの視線が本に注がれます。



## 蜘蛛の糸

(日本の童話名作選)

芥川龍之介／作  
遠山繁年／絵  
(偕成社)

作者の名前を読んだ時、「本の名前になっていない人だよ」と友だちに教えている子がいました。この本をきっかけに、将来、「芥川賞」に興味をもつ子が増えるかもしれません。

その日の下校指導の途中、校庭で蜘蛛を見つけた子が、物語を思い出したのか「一人には優しくない」と……と、話しかけてきました。子どもとの共通の話題が、また一つ増えました。

秋の読書週間に、全校で取り組む「しおり」作り。絵と文で自分の好きな本を紹介します。廊下に掲示されると、じっと見ていく子どもが続出するほどの人気です。友だちが推薦する本は読みたくなるのでしょうか。

読み聞かせなど、いろいろな方法で本を紹介することが、子どもたちの世界を広げることに繋がっていくと思います。